

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム絆 中ノ橋

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100451		
法人名	有限会社絆		
事業所名	グループホーム絆 中ノ橋		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通1丁目13-10 2F		
自己評価作成日	令和3年12月20日	評価結果市町村受理日	令和4年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食の楽しみを持たせるように、食事やおやつに工夫を凝らしている。できるだけ、生活に必要な身体機能を低下させないように一日を過ごすことが出来る場を目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年1月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事務所は、盛岡市中心街に位置し、周辺にはバスターミナル、商店街、医療機関、マンションが立ち並ぶ交通量の多いエリアにある7階建てマンションの2階のワンフロアに開設している。マンションの居住者のほとんどが単身赴任者であり、マンション内での交流は望めないが、周辺関係機関との交流等について盛岡市に協力を要請中である。利用者の状況に合わせた、介護サービスを提供できるよう、食事摂取、服薬、排泄、入浴などの状況が一目でわかるように工夫して取り組んでいる。また、コロナ禍のため家族との面会制限が続く中、利用者の日常の様子を写真とともに、一人一人のコメントを加えたことで、家族との連絡体制が強まったことにより、家族からの意見要望をも多く出されるようになり、利用者のケアの向上、事業所運営に反映できるようになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが ○ 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サービス向上の為、会社全体で共有できる理念に基づく具体的な目標を模索中。(今年度中に策定予定)	事業所開設以来の理念を継承してきたが、入居者個々の状況に応じその人らしい生活ができるように、日頃のケアを意識した、理念を検討することとしており、管理者・職員が話し合って年度内に見直しを行うこととしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	盛岡市の協力を得て、町内会と民生委員の支援要請に動いたが、個人情報等の都合により協力を得る事が出来なかった。引き続き支援要請を行っていく。	近隣に住宅が少なく、商店街が立ち並ぶ中で地域との関わりは低調である。市役所にも関係機関・関係組織への協力依頼について要請を行ったが、具体化していない。地道ではあるが、事業所として認知症共同生活介護について近隣への情報発信を続けていくこととしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園児や一般ボランティアの来所が継続できるよう取り組んでいる。(コロナ情勢の為、現実には至らなかった。)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。運営推進会議はコロナにより書面で実施している為、ご家族様の意見や要望を聞くことが出来ている。民生委員等の地域住民の参画は出来なかったが引き続き関係機関を通じて働きかける。社会資源については目を向けたが現実には至っていない。	コロナ禍の現在、地域包括支援センター、家族、利用者の委員で書面開催としている。委員からの意見などは管理者が議事録として整理し、職員で回覧し共有している。	ヒヤリハット報告等の運営に関する「報告事項」を設け、委員から提言、感想など更に多くのご意見をいただき、事業所運営に反映されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議議事録提出により、当グループホームの現状報告を行い協力関係を構築している。	地域包括支援センター担当者からは介護全般にわたり指導を受け、入居相談でも親身になって相談に乗ってもらっている。市の担当課とは介護保険法の通知などに関しても、具体的な助言をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議と併せ、身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束をしないケアについて正しい知識を深めている。	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月の職員会議の前に管理者及び職員が出席して開催している。スピーチロックなどはその都度、管理者は勿論周囲のスタッフも気づいた時点で声かけをし、注意喚起を行っている。また、これまでの研修資料などを基に内部研修を行っている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎朝の申し送り打ち合わせや、月一の職員会議を通して高齢者虐待防止について確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止と同様に、申し送りや職員会議の中で権利擁護に関する理解を確認し日々のケアに活用するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際にご家族へ適切な説明をし、不安や疑問点を解消できるよう説明を行い理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から受けた意見、要望を受け運営に反映している。絆だよりに個々へのコメントを添え発行し、面会に来られない遠方のご家族様には個別に写真と近況報告を文書にてお知らせし、事業所と家族の関わりが強まった。	利用者家族の8割が遠方にいるため、主に電話や手紙などで連絡を取り合っている。家族全員が運営推進会議の委員としており、書面開催資料を郵送し意見要望を聞いている。また利用者個々の生活の様子などを写真入りで「絆だより」としてお知らせしたことにより、家族との連絡が良好になり具体的な意見を聞くことも増えてきた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングで意見や提案を聞いているが、今後更なる職員意見の把握と円滑なコミュニケーションを図る為、管理者面談、本社面談を具体的に計画を立てている。	毎朝の申し送り、職員会議、日常業務を通じて管理者は職員の意見提言を汲み取るようにしている。職員の意見をもとに、排せつ介助の際の物品の工夫等、具体的な業務改善に繋がった例もある。今後、管理者との個人面談、本社面談を具体化させていく予定である。また、職員の人材育成の一環として、外部研修に計画的に出席できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の勤務状況を把握しながら、労働時間、労働環境の整備に努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修のほかに、年間研修計画に基づき外部研修にも積極的に参加させ職員の介護ケア向上推進に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会やいきいき財団主催の研修参加を通して、同業者と交流する機会を設ける取り組みをしている。(今期はコロナ情勢の為、参加できていない)		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安なことや、要望等には応えるようにしているため、信頼関係が出来てきている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って、利用者本人の希望に沿うことにより家族との信頼関係も構築できている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時必要としていることを見極め、今現在対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族同様の対応で過ごしている事で、良好な関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望に応えると共に、家族様の都合や立場を考え支援している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が収束しなかった為、「寄り道計画」の作成はせず、施設内で行えるレク活動等の支援に力を入れた。今後は情勢を見ながら、知人の訪問などお勧めしていく。	「寄り道計画」はコロナ禍のため具体化されなかった。コロナ禍にあり、外出も思うようにできなかったため、室内でできるミニダーツなどのゲームを楽しむよう工夫したり、職員は利用者の昔の話や思いをじっくりと聞いて過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を理解した上で、憩いの時間等の対応に工夫し支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況変化に随時対応し、個々に適した行先の選択について情報提供に努め、相談支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向が確認できる範囲で、利用者寄り添い、会話やつづやきから意向を把握するよう努めている。	自分の思いを伝えることが困難な利用者もいる。何をしたいのかを何気ない仕草、表情から汲み取るようきめ細かな観察を行い、ケアの向上に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り職員全員がアセスメントを踏まえ、情報共有や状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が業務内において、一人一人の状態観察を行い、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議とケアカンファを行い、現状に即した計画を作成している。	居室担当は特に設けず全職員が利用者個々の状況を共有しながらケアにあたっている。ケアプランは管理者が作成している。職員会議及びカンファレンスにより利用者の状況について意見交換を行うとともに、協力医、訪問看護師の意見、家族の意向も確認しながら作成している。作成した介護計画は家族にも送付し同意を得ている。希望により、入居申し込み予定者に「お試し宿泊」を行っている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が業務内において、一人一人の状態観察を行い、職員間で情報共有し、計画の見直し等を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスでは出来ないニーズに対して、出来る範囲でのサービス提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源がなかなか見つからず、協働できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による定期的な訪問診療の利用を基本としながら、個々のかかりつけ医との連携もできるよう配慮している。	入居時に、かかりつけ医の継続について利用者、家族から意向を確認している。現在、全員が協力医療機関をかかりつけ医とし、毎月1回の訪問診療を受診している。定期的な訪問歯科診療も受けている。更に、週1回は訪問看護ステーションの看護師による全身観察、看護処置等が行われる等、関係機関との連携体制が整っている。なお、体調に変化があった場合は、随時家族にも情報を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と情報共有しながら、随時適切な対応が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報交換や、相談に努め関係作りを行っている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り加算対応はしないが看取りの経験はある。重度化の対応と併せて事業所でできることに対応し、必要に応じて家族と連絡をとり支援している。	医療連携体制(看取り)に関する指針及び重度化した場合の指針に沿って、入居時に家族に説明している。看取り介護加算はとっていないが、開設以来何人かの利用者の最期を見届けてきた。その際には、家族への配慮は勿論、職員の精神的フォローも心掛けている。協力医療機関との連携体制は構築されており、随時連絡をとりながら利用者の最期を見届けることができるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所で出来る範囲の対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内研修に於いて、対応方法について全職員が研修している。地域との協力体制は構築できていない。	災害時には、利用者に恐怖心を与えない速やかな避難を目指している。年2回の災害避難訓練を実施し、8月には火災を想定した避難訓練を行った。3月には夜間の地震を想定した訓練を計画し非常招集訓練も実施する予定である。以前の避難訓練の際、消防署の助言で、状況により利用者を外に退避させるよりも、事業所に留まって消防の到着を待った方が安全の場合がある旨の助言を得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性に合わせた言葉かけや対応をしている。	名前を呼ぶ際は、○○さんと、訛り言葉で親しみを込めている。トイレ誘導時の声掛け、入浴時の更衣の際などには羞恥心に特に配慮している。また、居室のドアの小窓(ガラス部分)には、小カーテンを取り付け、夜間でも職員がカーテンを開け利用者の状況を随時観察できるようにしており、利用者の安全面の確保を心掛けるとともに、利用者のプライバシーの確保にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの個性に合わせて、自己決定できるように働きかけている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの要望を優先し、希望に添った支援を行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みを尊重し、身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強い出来ない為、利用者と職員と一緒に準備や片付けは出来ていない。	調理、後片付け等を一緒にできる利用者が現在はいないため、職員が中心になって行っている。おいしく楽しく食べて貰うことを前提に、職員が献立を工夫し調理している。摂食嚥下障害のある利用者もいるため、その方に合わせた食事形態にしている。7名中3名がホールで食事し、他の4名はそれぞれの居室で職員が介助しながら食事をしている。また、職員の手作りおやつも提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、栄養バランス、水分量を毎日考慮し、良好な状態を保てるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の助言を受けながら、毎食後口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立で排泄できる方に対しては、自立に向けた支援を行い、自立出来ない方に対しては状態に応じた排泄支援を行っている。	7名中リハビリパンツ使用は4名であり、他の3名はおむつを使用しベッド上での排泄介助となっている。業務日誌(全利用者の氏名、バイタル、食事摂取状況、おやつ内容、服薬状況、洗濯チェック、リネン交換、排泄状況、入浴状況等を一覧にしている)により、排泄状況を確認し排泄介助をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の乳酸菌飲料の提供、昼食のヨーグルト等の提供で便秘予防を行っている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に浴った支援はなかなか難しいが、状況に合わせて対応をしている。	入浴は週2回であるが、場合によっては週3回入浴する方もいる。7名中4名は浴室で入浴しており、うち1名は全身浴、3名はシャワー浴である。なお、浴室での入浴が不可能な3名はその日の体調をみながら、全身清拭、足湯などとしている。職員は利用者がゆったりとした気持ちで寛いだ時間を過ごせるよう、声掛けをしながら介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に戻られてからの自由は確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬がある方に対して、職員が服薬支援を行い毎日の状態を観察しているので症状の変化の確認は出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の嗜好品に対しては支援できているが、外出による気分転換等の支援は不十分だと思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の現在、家族との外出や散歩も含め難しくなっている。施設内での外気欲や散歩が出来ない状態である。今後も課題として取り組んでいく。	コロナ禍のため、外出は大幅に制限している。利用者のストレス解消と運動も含めて、事業所内でBGMを流したり、座ったままできるミニダーツ、風船バレー、出来る範囲で作品作りをする等、利用者が少しでも気分転換できるよう心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていないので、使えるような支援はしていない。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る利用者様はご家族と電話で会話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル椅子の配置など工夫し、ゆったりと過ごせるよう支援している。	事務室からもそれぞれの居室が見渡せるとともに、居室、トイレ、浴室、事務室に囲まれたゆったりとした共有部分に、ソファ、テーブルなどが置かれている。空気清浄機、加湿器等により温度管理がなされている。日中は唱歌、演歌などのBGMを流したり、時代劇を見る等、ゆったりとした時間を過ごせるようにしている。共有部分で日中を過ごす利用者は少ないが、座る場所は固定化せず、利用者の状況、他利用者との関係をみながら随時声かけしている。ホールの壁面には利用者が職員と一緒につくった作品を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士が思い思いに過ごせる共用空間を提供し、居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを居室に置くなどし、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	ベッド、タンス、クローゼット、時計、ナースコール、エアコンなどが備え付けになっていて、使い慣れた寝具、ソファを持ち込み、整理整頓がなされゆったりとした居所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ自立に向けての生活空間として、過ごせるように工夫している。		